

第4回放射線管理士セミナー開催報告

神奈川県放射線管理士部会 (公立大学法人横浜市立大学附属病院) 西山 雄治

秋田県放射線管理士部会、神奈川県放射線管理士部会が主催、秋田県放射線技師会、神奈川県放射線技師会が共催する第4回放射線管理士セミナーを平成24年9月15日(土)に秋田県秋田市の秋田県総合保健センターで開催致しました。

本セミナーは、今回のテーマ「緊急被ばく医療への取り組み―原発が立地しない県では―」に沿って3演題の報告、サーベイの実習、特別講演、意見交換会の4部構成で13:30から17:30終了予定を超過して、熱心な受講、実習、活発な意見交換のセミナーとなりました。

セミナー開催にあたり、秋田県放射線技師会会長 土佐鉄雄氏より放射線サーベイヤー第1次派遣隊での経験を踏まえた緊急被ばく医療について挨拶がありました。放射線サーベイヤー第1次派遣隊は、平成23年3月16日から21日まで、日本放射線技師会(当時)が内閣府原子力安全委員会(当時)からの協力要請に応じた活動であり、土佐氏が隊長を務め、隊長以下11名がボランティア参加された非常に社会貢献度の高い活動です。

講演では、それぞれの現状や役割、活動方針の報告が中心となりました。

演題1.「神奈川県技師会と(神奈川)県の取り組み」については、神奈川県放射線技師会災害対策委員 吉田篤史氏より、神奈川県の特徴、神奈川県技師会と国や神奈川県との連携の沿革や実績について、苦心した事から今後の展望まで盛り込まれた報告でした。

演題2.「神奈川県放射線管理士部会活動報告」については、神奈川県放射線管理士部会会長 濱田順爾氏より、管理士部会の活動だけではなく、神奈川県放射線管理士部会と神奈川県技師会、NASチーム(横須賀三浦原子力災害特別派遣チーム)との連携、取り組みについても報告されました。

演題3.「秋田県放射線技師会活動報告」については、秋田県放射線技師会副会長 藤原理吉氏より、放射線管理士活動を中心に秋田県放射線技師会の現状、取り組み実績、今後の展望が報告されました。

実習は、「NASチーム(横須賀三浦原子力災害特別派遣チーム)のセグメント法の紹介及び実習」と題しまして、①「サーベイメーターの使用法」の講義を神奈川県放射線管理士部会 岩杉康司氏が行い、その後に②「セグメント法の紹介及び実習」にて、神奈川県放射線管理士部会 橋本輝美氏の説明の下、実際のサーベイメーターと模擬線源を用いて、放射線災害時のサーベイを演習しました。セグメント法・3分間サーベイとは、避難所等で多くのひとのサーベイを行うことを目的に、汚染あり・なしを短時間に効率的に判別するために、NASチーム(横須賀三浦原子力災害特別派遣チーム)により考案された方法です。実際に、福島原子力発電所事故に伴う放射線サーベイヤー第1次派遣隊の神奈川県参加者が実践し、多くの避難住民のサーベイに用いられました。放射線災害時のサーベイの実践的な方法だと思います。

特別講演は、「緊急被ばく医療に対する秋田県の現状」について、秋田県平鹿地域振興局福祉環境部(横手保健所) 大須賀貴人氏より、秋田県における行政側の取り組み、福島原子力発電所事故に伴う放射線サーベイの報告、そして秋田県及び神奈川県の人口推移から予想される20年後以降の医療の問題という幅広い内容となりました。未来の医療の問題として、都道府県を越えた連携、協力の必要性が指摘されました。

意見交換会は、司会進行・神奈川県放射線管理士部会副会長 小泉美都枝氏、秋田県放射線技師会副会長 藤原理吉氏による、1.「本日のセミナーの内容を通じた意見交換」と川崎市立多摩病院で行われた医師、看護師への放射線に関するアンケート報告を提示したのちに2.「放射線に関するアンケート 医療被ばく 放射線に関する意識調査について日頃感じる事」の2部構成で行われました。

1. 「本日のセミナーの内容を通じた意見交換」では、

- ・福島原子力発電所事故に伴う支援活動に参加したかったが、職場の都合で困難であった。
- ・日頃から研鑽を行わないと、“いざという時”十分な活動ができないのではないか。
- ・診療放射線技師、放射線管理士の職能を活かすにはどう準備すれば良いのか。

といった、先の福島原子力発電所事故に伴う放射線災害、緊急被ばく医療を中心に活発な意見がありました。中でも、神奈川県放射線技師会災害対策委員として国や神奈川県との連携を図っていて、放射線サーベイヤ第1次派遣隊にも参加した吉田篤史氏は、「行政側に積極的に働きかけ、連携を深め、合同の災害対策訓練を実施するといった行動が必要」、秋田県放射線技師会会長でありサーベイヤ第1次派遣隊隊長の土佐鉄雄氏は、「本当の災害にはマニュアルがない、受け身ではなく、積極的に考えて行動する力が必要、全てが想定“内”といえるように日頃の準備が重要」といった、自身の経験から語られる貴重な意見がありました。

2. 「放射線に関するアンケート 医療被ばく 放射線に関する意識調査について日頃感じる事」では、

- ・一般市民や医療スタッフに、目にみえない、感じない放射線をどう説明、対応ができるのだろうか？
- ・放射線に関するカウンセリングも大事だが、自分たちが使用している放射線の量を認識しているか？
- ・被ばく低減施設認定取得が機会となって認識が向上した。

といった意見が出されました。

また、看護師のアンケートに書かれた診療放射線技師へ、

- ・線量が少なくても、「ただ大丈夫」だけではなく、きちんと患者さんに説明を。
- ・患者接遇の向上、笑顔、やさしい対応を。
- ・部屋（撮影室）には放射線は残っていないの？という質問
- ・待合廊下で待っている間も大丈夫？（放射線が漏れていないか？）

といった意見が寄せられた報告があり、放射線業務に従事する専門家に求められるものについて、活発な質問、意見交換が行われました。

総括では、神奈川県放射線管理士部会会長濱田順爾氏より、ともすれば神奈川県放射線技師会及び神奈川県放射線管理士部会の手前味噌な報告になってしまうようなところ、セミナー参加者の皆様の、熱心で真摯かつ発展性のある意見や感想をいただいたことへのお礼と、基本に忠実に、日々の堅実な研鑽と、活動実績の積み重ねについてまとめがありました。神奈川県放射線管理士部会では、意見交換会の内容を中心に、今回の放射線管理士セミナー報告及び提言を、日本診療放射線技師会へ行なう予定です。

北海道で開催しました第1回、宮城県での第2回、福井県での第3回ときまして今回、秋田県での第4回放射線管理士セミナーも無事にそして成功裏に開催できました。

来年、第5回放射線管理士セミナーを企画しますと共に、今後もより精力的に放射線管理士の活動活発に向けて、県内にとどまらず全国各地で開催し、参加者の皆さまの日々の放射線管理業務に役立つ企画と活発な交流や意見交換を行いたいと思っています。聞いてみたい講演、演習したい内容、企画、講師等ご意見・ご要望がございましたら、神奈川県放射線管理士部会 (<http://krsv.umin.jp/>) まで、ご連絡いただけたら幸いです。